



公共下水道事業会計

令和4年度決算の概要について

収益的収支（3条予算） 【税抜き】

- 当該年度の企業の経営活動に伴い発生するすべての収益とそれに対応するすべての費用を計上します。

（単位：円）

	R4 決算額	R3 決算額	増減	R4 予算に対する執行率
下水道事業収益	5,866,922,224	5,888,851,088	△21,928,864	98.0%
営業収益	4,173,532,038	4,168,320,830	5,211,208	97.1%
営業外収益	1,675,111,664	1,701,498,608	△26,386,944	100.5%
特別利益	18,278,522	19,031,650	△753,128	92.5%

	R4 決算額	R3 決算額	増減	R4 予算に対する執行率
下水道事業費用	5,706,368,208	5,682,353,461	24,014,747	96.0%
営業費用	5,372,710,739	5,326,579,659	46,131,080	96.0%
営業外費用	315,029,095	336,626,777	△21,597,682	100.0%
特別損失	18,628,374	19,147,025	△518,651	77.1%
純利益	160,554,016	206,497,627	△45,943,611	—

収益的収支のポイント①

■ 下水道事業収益

事業収入の総額：58億6,692万2,224円（前年度比2,192万8,864円の減）

◎主な収入：下水道使用料 31億8,771万9,055円（4,565万7,181円減）

◎主な増減要因：下水道使用料入の減少

⇒有収水量の減少に伴い下水道使用料が減少したため。

■ 下水道事業費用

事業費用の総額：57億636万8,208円（前年度比2,401万4,747円の増）

◎主な費用：管渠費 3億2,656万869円（5,410万1,410円増）

ポンプ場費 4億5,233万1,559円（5,511万6,855円増）

減価償却費 27億5,390万9,752円（2,768万7,953円増）

◎主な増減要因：管渠費、ポンプ場費等の増加

【管渠】修繕費 7,300万9,969円（3,006万2,374円増）

【ポンプ】修繕費 1億1,285万3,789円（3,290万967円増）

⇒霞ヶ関第二雨水ポンプ場等にかかる修繕費が増加したため。

収益的収支のポイント②

▶ 収益的収支

純利益：1億6,055万4,016円（前年度比4,594万3,611円の減）

⇒ 主な要因は、下水道使用料の減少と修繕費等の増加により
管渠費、ポンプ場費等が増加したため。

▶ 1 m³当たりの使用料単価と処理原価（本市基準）の比較

使用料単価－処理原価：96.26円－90.45円＝5.81円の差益

使用料単価：有収水量 1 m³当たりの下水道使用料

処理原価：有収水量 1 m³当たりの汚水処理費用

差益が出ている

⇒ 汚水処理にかかる費用を使用料と一般会計からの負担金でまかなえている

資本的収支（4条予算） 【税込み】

- 市民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新など建設改良のための支出とその財源となる収入を計上します。

(単位：円)

	R4 決算額	R3 決算額	増減	R4 予算に対する執行率
資本的収入	771,622,770	682,921,003	88,701,767	86.8%
企業債	471,400,000	354,000,000	117,400,000	94.3%
国庫補助金	0	116,780,000	△116,780,000	0.0%
工事負担金	173,100	283,100	△110,000	28.5%
受益者負担金	37,813,930	32,665,850	5,148,080	100.8%
分担金	30,432,220	42,824,110	△12,391,890	327.2%
他会計負担金	75,709,370	72,477,943	3,231,427	99.7%
他会計補助金	156,021,000	63,890,000	92,131,000	75.7%
固定資産売却代金	73,150	0	73,150	1,878.8%

	R4 決算額	R3 決算額	増減	R4 予算に対する執行率
資本的支出	2,906,894,302	3,026,880,525	△119,986,223	84.9%
建設改良費	1,774,844,000	1,845,425,628	△70,581,628	77.6%
企業債償還金	1,132,050,302	1,181,454,897	△49,404,595	100.0%
資本的収支の不足額	2,135,271,532	2,343,959,522	△208,687,990	—

資本的収支のポイント①

■ 資本的収支

資本的収入：7億7,162万2,770円（前年度比8,870万1,767円の増）

⇒対象事業費の増加に伴う、企業債及び他会計補助金の増加

主な収入：企業債 4億7,140万円（1億1,740万円増）

他会計補助金 1億5,602万1,000円（9,213万1,000円増）

資本的支出：29億689万4,302円（前年度比1億1,998万6,223円の減）

⇒建設改良費及び企業債償還金の減少

主な支出：建設改良費 17億7,484万4,000円（7,058万1,628円減）

資本的収支の不足額：21億3,527万1,532円（前年度比2億868万7,990円減）

※不足額の補填財源

・消費税資本的収支調整額

⇒4条収支における消費税の差額：1億2,607万7,052円

・損益勘定留保資金

⇒減価償却費など現金支出を伴わない3条費用等：20億919万4,480円

資本的収支のポイント②

工事の様況

汚水管渠整備事業：1,104m、3地区約7.92ヘクタール

（新河岸第3処理分区汚水枝線築造工事等）

汚水管渠改良事業：合流管更生工事87m

（新河岸第8－2処理分区下水道管更生工事等）

新宿町二丁目下水道管路施設更生事業：合流管更生工事306m

（新河岸第8－2処理分区下水道管路施設更生工事

（その2））

●当初予算は、汚水管渠整備事業を3,051m、汚水管渠改良事業と新宿町二丁目下水道管路施設更生事業で1,215m施工予定。

⇒入札の不調や設計の変更等により年度内に完了できない工事があったため、乖離が生じている。

収益的収支と資本的収支の関係 (3条予算と4条予算)

3条予算



内部留保資金

損益勘定留保資金、
消費税資本的収支
調整額

減債積立金、建設
改良積立金、未処
分利益剰余金

4条予算



企業債残高と内部留保資金残高の推移



▶ 企業債残高（建設改良のための借金）

140億円～169億8千万円の間で推移しています。



▶ 内部留保資金残高（建設改良のための資金）

40億1千万円～49億5千万円の間で推移しています。

令和4年度決算のまとめ

■ 収益的収支

- ・ 下水道事業収益で下水道使用料が減少したことや下水道事業費用で修繕費等が増加したことにより当年度純利益が4,594万3,611円減少した。
- ・ 雨水処理に要する費用は全額公費で負担すべきもので一般会計からの繰入金の範囲内で執行する必要があるため、当年度純利益には影響しない。
- ・ 今後も不明水対策としての調査費や修繕費などの支出を確保する必要がある。
- ・ 近年の物価高騰などの影響を予測することが困難になっている。
- ・ これらを踏まえ、将来を見据えた適正な使用料水準などについて検討していく。

■ 資本的収支

- ・ 企業債残高は順調に減少していて、今後も減少傾向が見込まれる。
- ・ 今後も下水道施設の耐震化や更生工事などに多くの資金が必要となる。